



それでも

離骨を  
やらない

ハナブサ

DOJIN  
R18  
成人向け

明治二年頃





悠真様が  
自らご旅行に  
出向かれるとは  
珍しいですね

そうか？

しかし一人旅とは  
ご両親やご兄弟と  
共に行かれた方が

きっと楽しいと  
思いますけど

そうです  
とも



一人じゃ  
ない

おまえが  
いるだろ



あ  
そうでした

しかし  
奉公人の私など  
数に入れる  
べきでは…

…  
楽なんだ

おまえと  
二人きりの方が  
気が楽なんだ

！



たしか十歳の  
時に奉公に  
来たので今年で  
十年目ですね

章仁はうちに  
奉公に来て  
何年になる？



そう言うって  
いたいただけると  
奉公人冥利に  
尽きます



ええ



もう  
そんな  
経つのか



おまえは今まで  
来た年季奉公の  
奴らとはまるで  
違ってたからな



初めておまえと  
会った日のことは

今でもよく  
覚えているよ



はい

悠真その子を  
奉公人部屋まで  
案内して  
あげなさい

私はこの方と  
話があるから



よろしく  
お願いします！

……  
なんかおまえ  
変わってるな

え？  
なんで？



年季奉公って  
わかるか？  
ざっくり言うと  
身売りだぞ

親に売られて  
悲しく  
ないのか？



うちは  
貧乏だし  
僕は末っ子  
だし

食い扶持  
減らすには  
仕方ないよ

仕方ないって  
おまえ……



まあ  
口減らしとか  
言ってる……

殺されなかった  
だけでも運が  
いいよ



年季奉公で  
うちに来た奴らは  
だいたい暗い  
顔してるのに

おまえやたら  
ニコニコして  
いるから……



そう  
思わない？



...



ご指名  
感謝して  
おります

あれ以来俺は  
おまえが気に入って  
親父に頼んで俺の  
世話係にして  
もらったんだよな



…え？

俺のことは  
もうどうでも  
いいのか？





俺は  
いつの間にか  
おまえを…

愛して  
しまったんだ…



…悠真様  
私のような  
奉公人などを  
相手にしては…

それに私は  
男ですよ？

いずれ  
良い女性と  
ご縁が…



ぱっ!

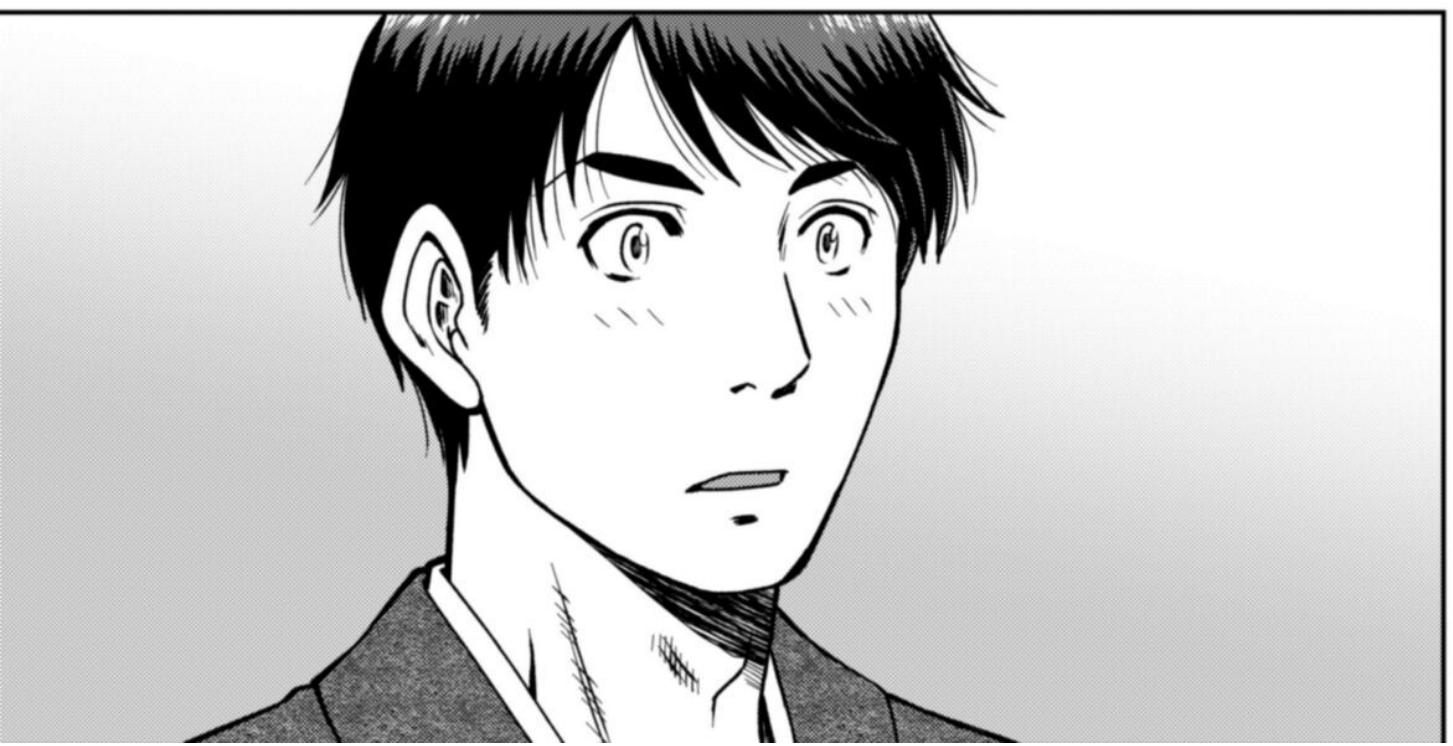


この感情に  
気付いたのは  
ここ二、三年だ

主従的感情  
じゃない  
家族的感情  
でもないって…



おまえじや  
なきや  
ダメだ!!





だから…頼む  
俺から離れ  
ないでくれ…



：離れませ  
離れるわけ  
ないじゃない  
ですか…

こんなにも私を  
想ってくれる方を  
置いていけるわけ  
ありません



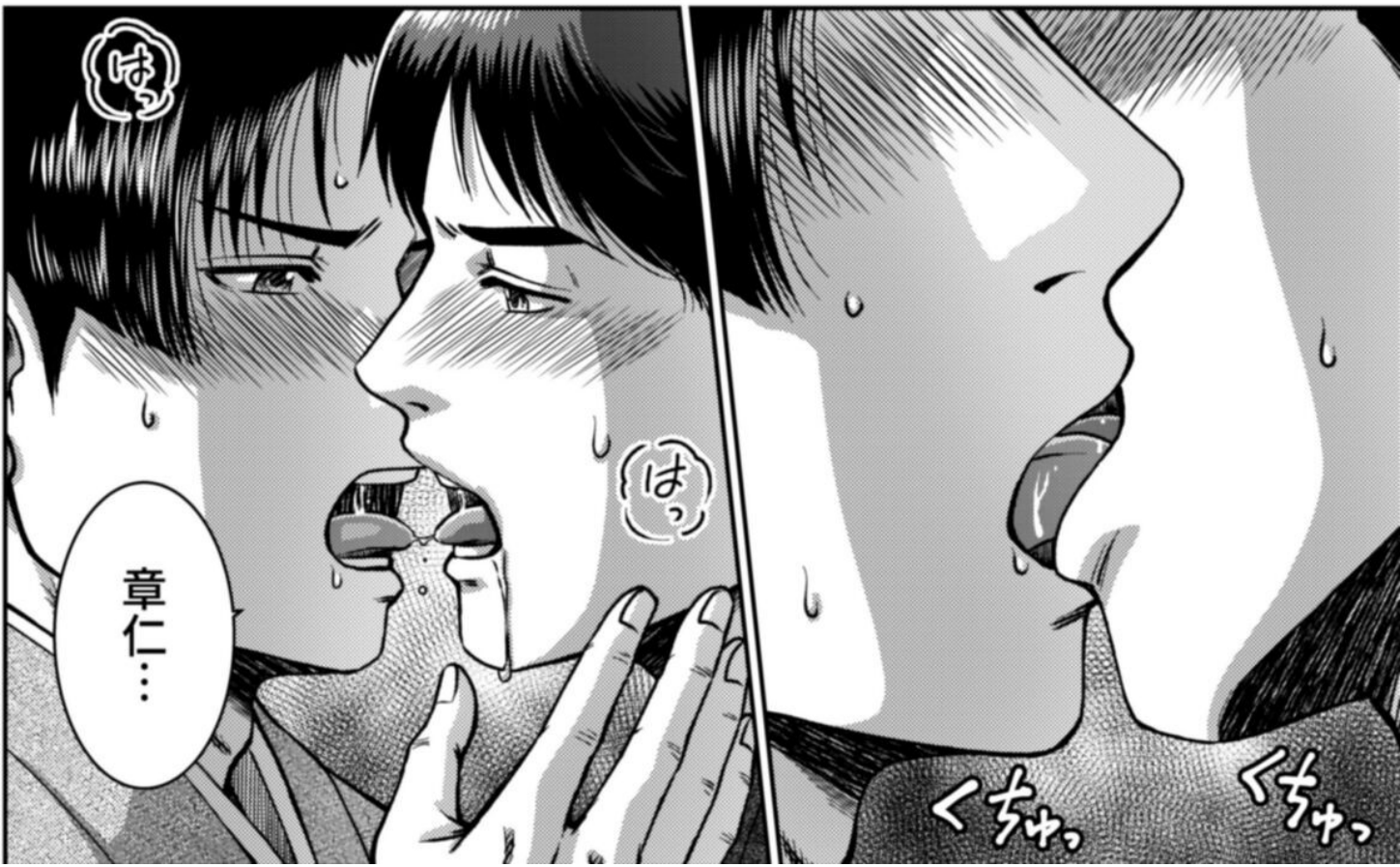
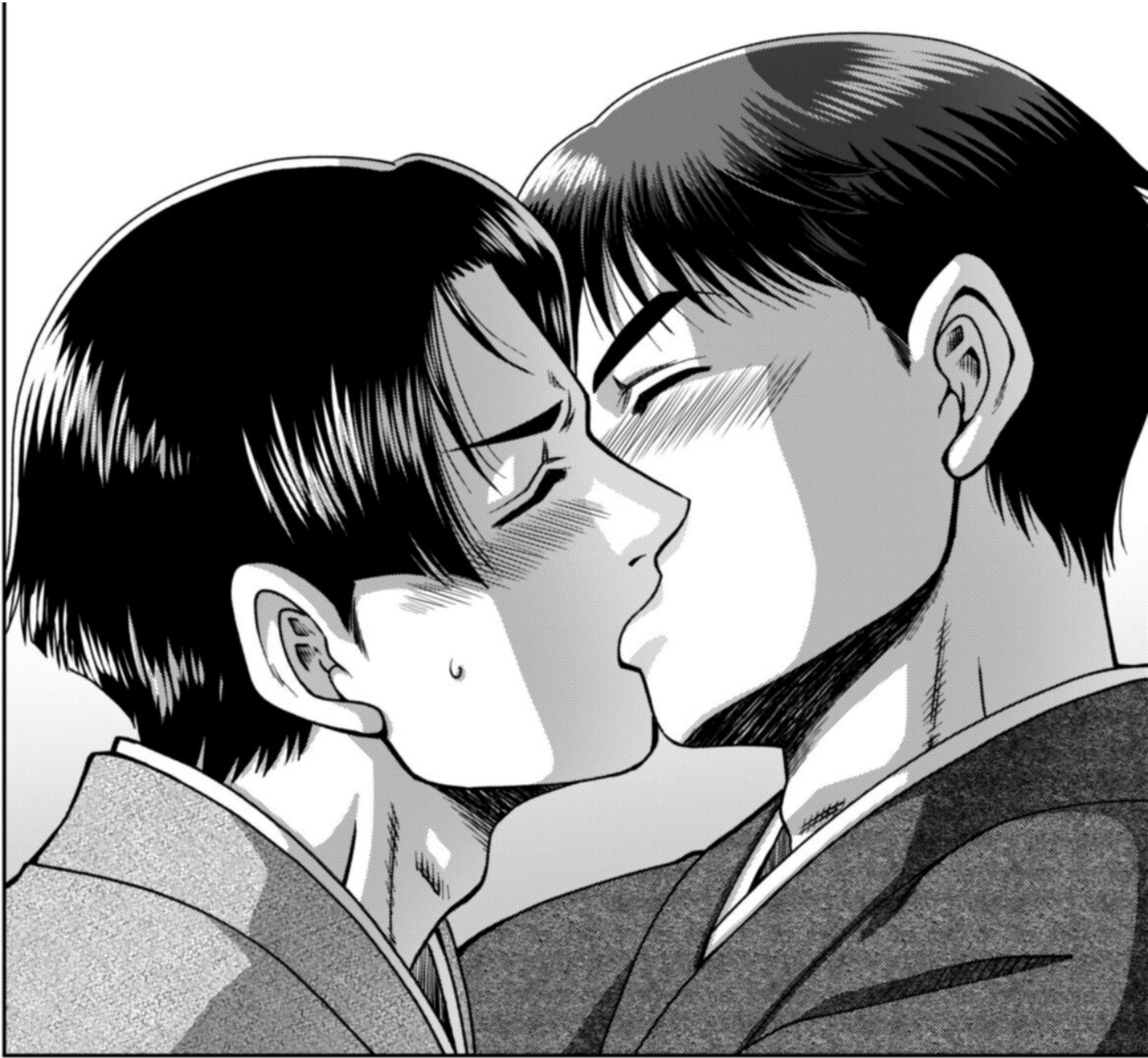
奉公人という  
立場故お伝え  
することも  
憚られますが…

私も想いは  
一緒です  
悠真様

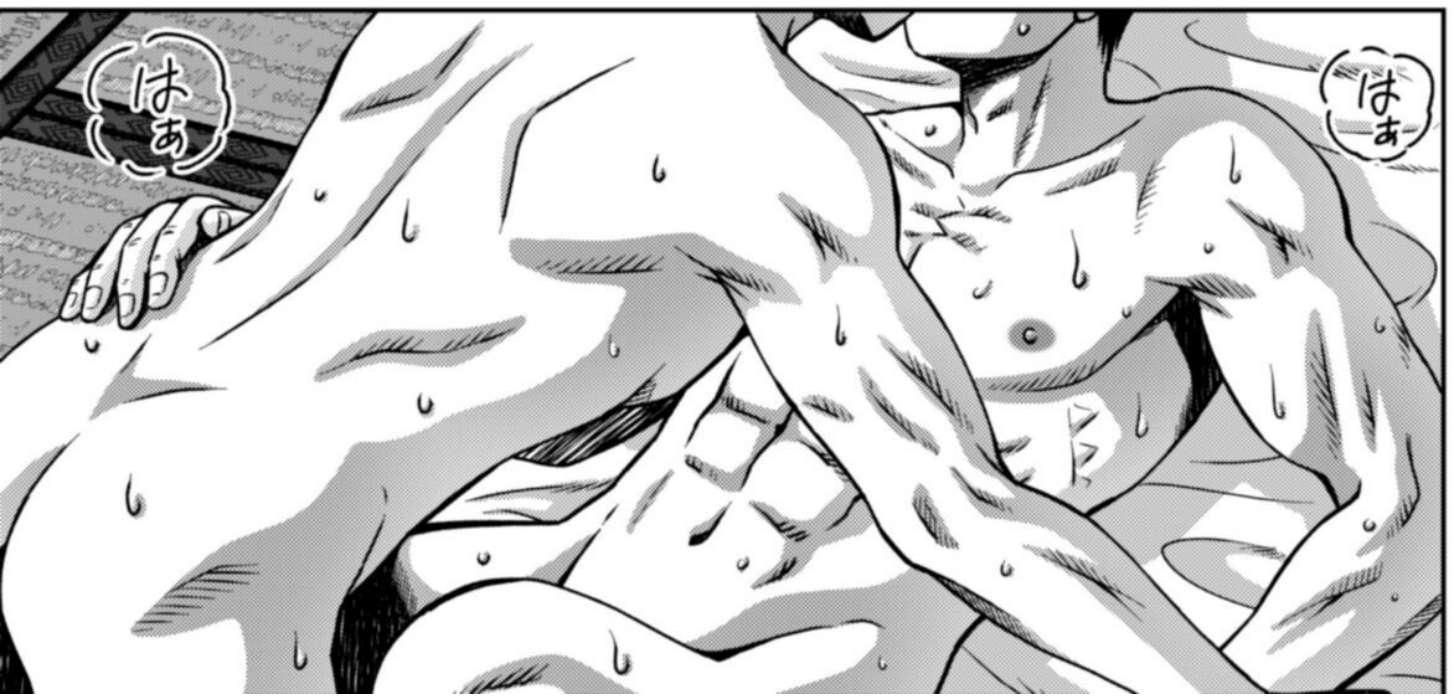
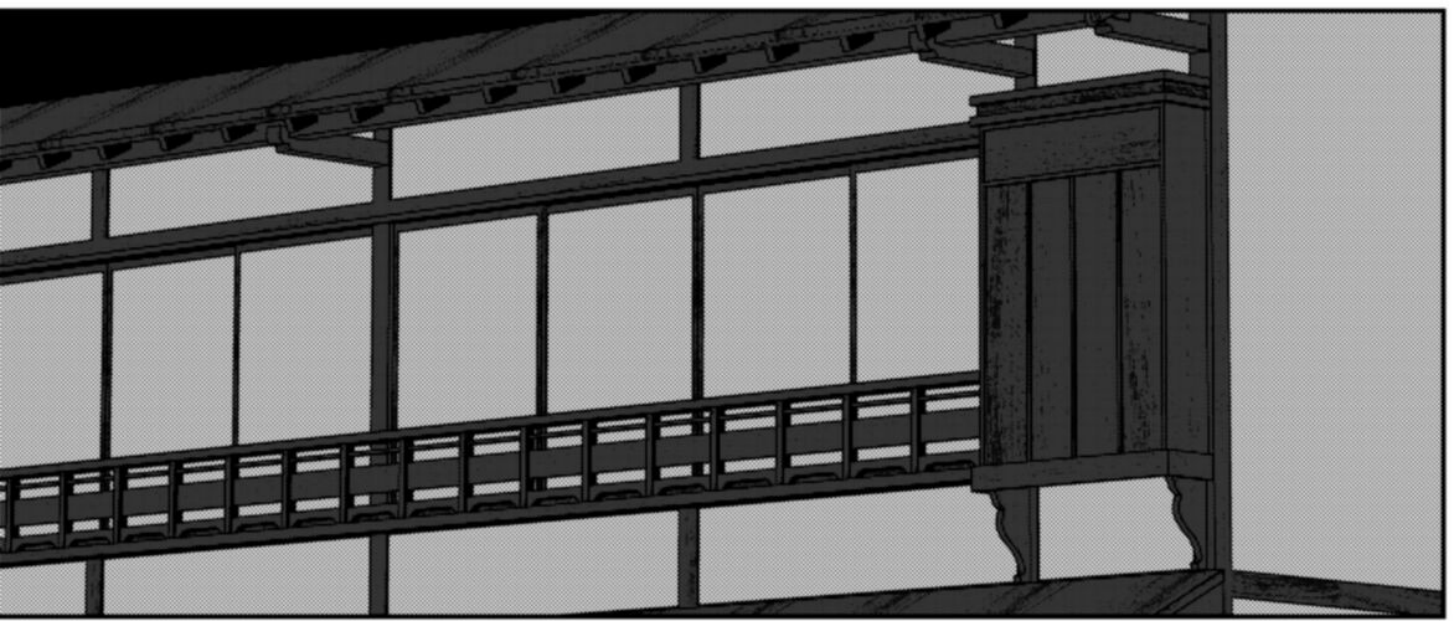


なら…

キッ



おまえの全てを  
俺にくれ





なあ  
章仁…

はあ

は

親父は浮世絵の  
収集が趣味なのは  
知ってるだろ？



親父の収集した  
浮世絵の中に  
春画もあるんだ

その中に  
男色の絵も  
あってな…

あの春画を  
思い出しては  
俺とおまえを  
重ねていた

あの時は  
妄想だったが  
今はそれが  
現実になっている



んっ…  
あッ…!

気持ちいいか？  
我慢しなくて  
いいんだぞ

くちゅ  
くちゅ









悠真様が  
私の中で  
蠢いている

それが存外  
心地良いとは  
思わなかった…



悠真様の  
コレ  
陰茎が私の  
尻穴に入って  
きたら…



う…  
想像したら  
また…

きつ…  
気にするな  
むせただけだ

げほっ

げほっ

すっ…  
すみません！  
つい…



こくり

お…  
お恥ずかし  
ながら…



ホタホタ

しやぶられて  
そんなに気持ち  
良かったのか？



これから  
もっと気持ち良  
くしてやる

…もう十分  
ほぐれた  
ようだし…

いれ  
挿入るぞ



先が  
入った

早く全部  
おまえの中に……  
力を抜いて



は……







でも思った  
とおりだ  
すごく良い

章仁：おまえの  
尻穴が俺のを  
締め付けてくるよ



…すまんつい  
やさしくしようと  
思っていたんだが



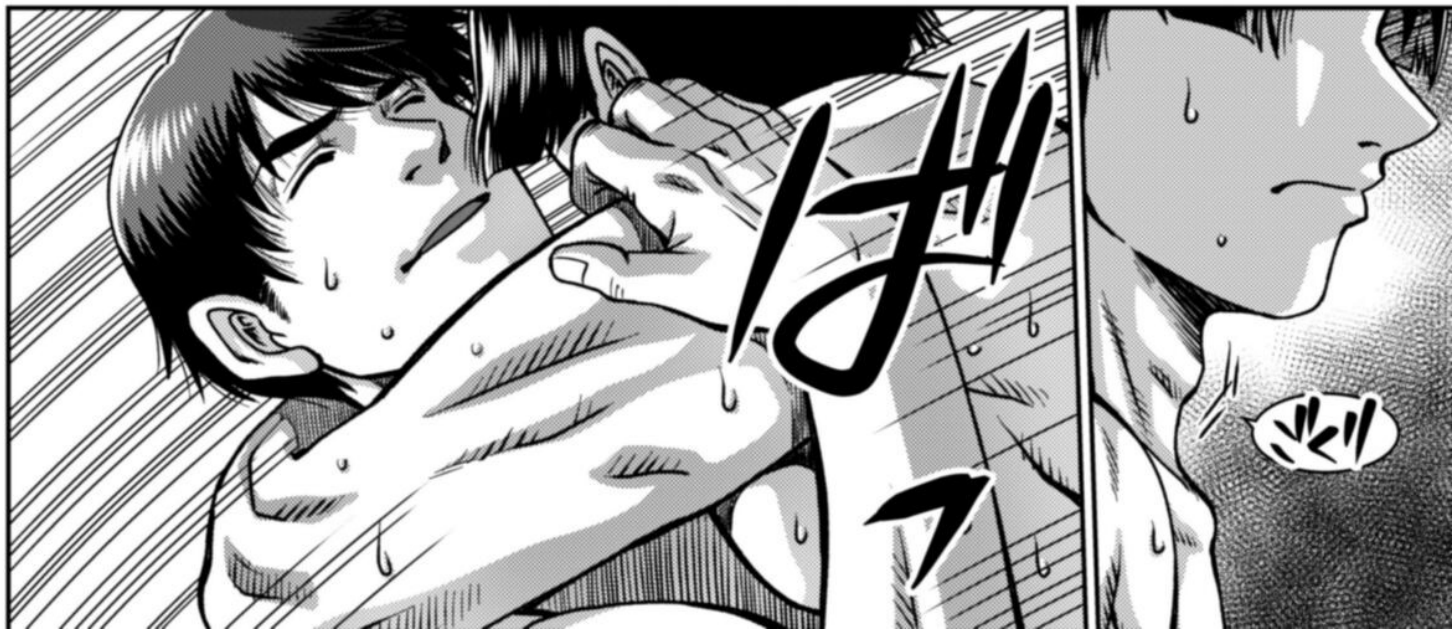
そ…そうですか  
お気に召して  
いただけましたか  
…

よいのですよ  
私をどう  
扱おうと…

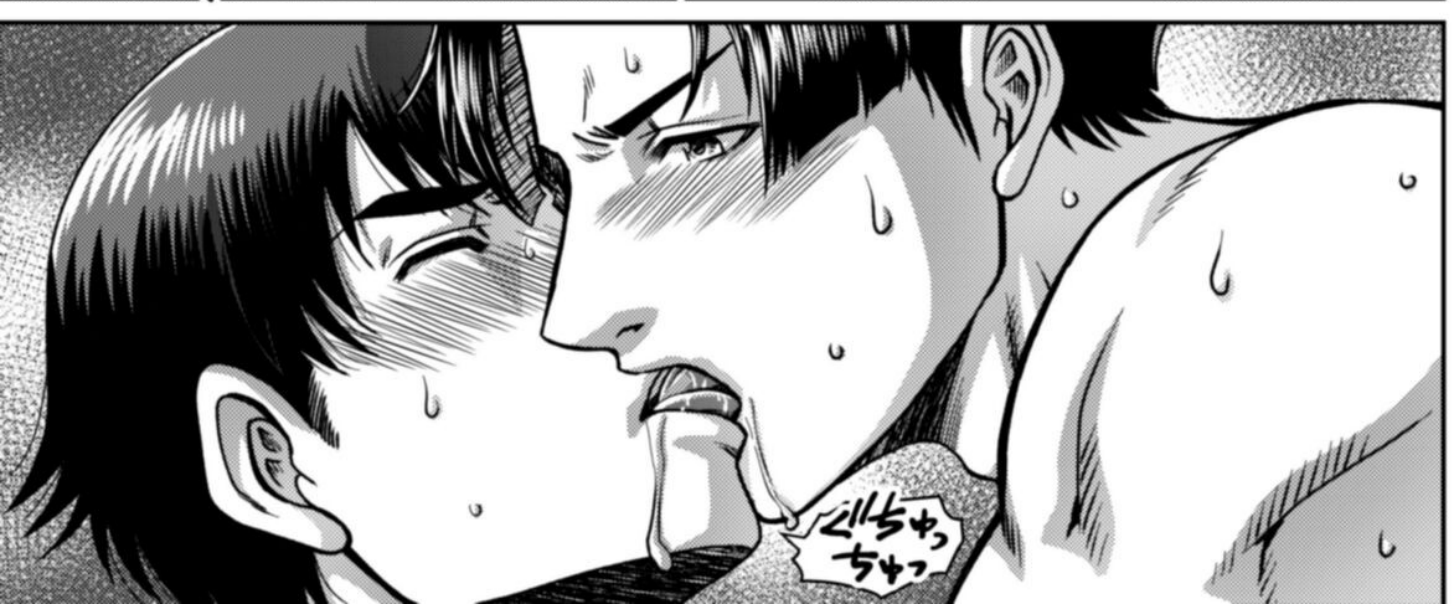
私は身も心も  
悠真様のもの  
なのですから…

はっ

はあ



はっ





はんッ

はっ…



おまえの中…  
想像以上だ

章仁…

腰が止め  
られないよ

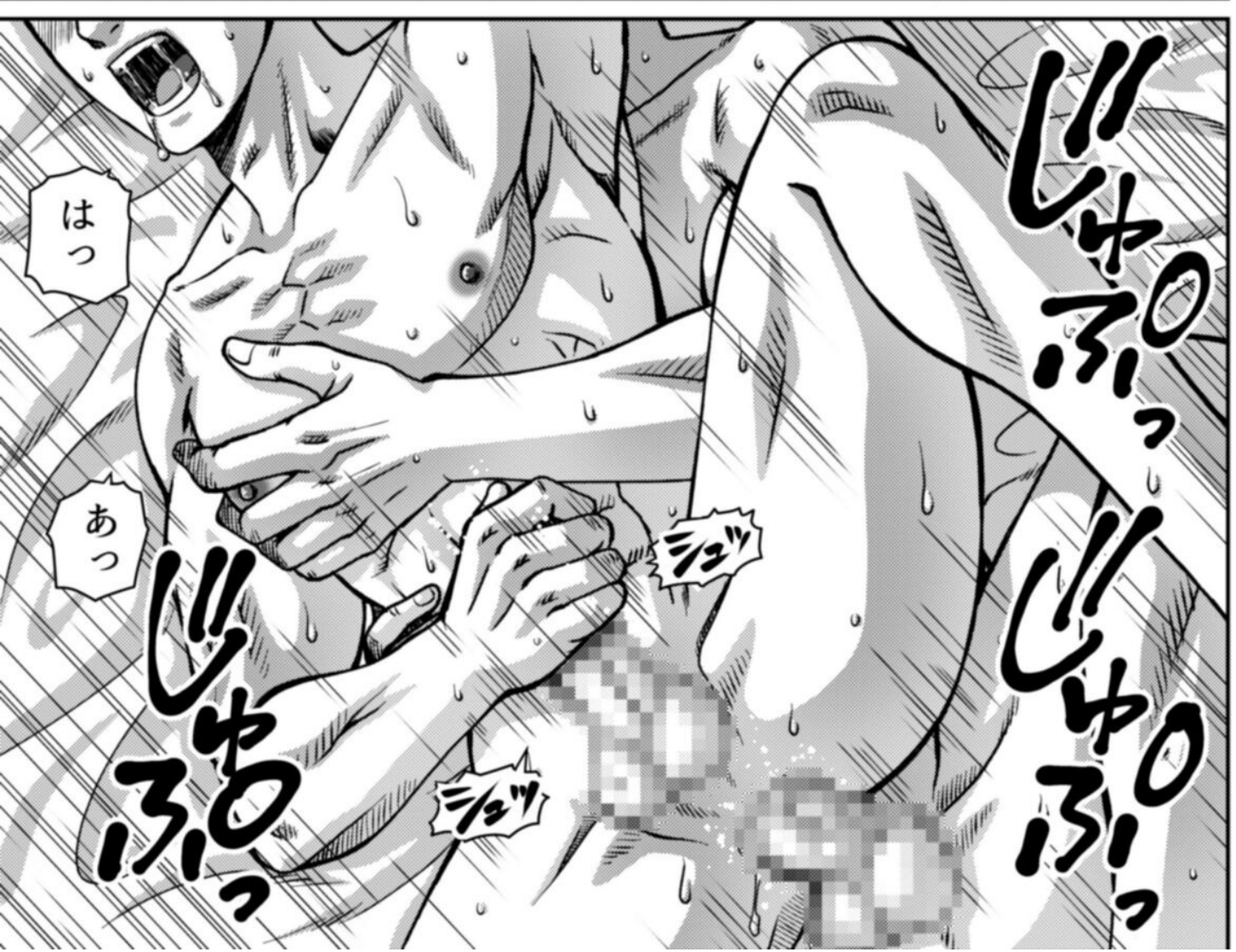
すっ

すっ

すっ

はあ

はあ





悠真様  
…また  
いきそ…

俺もだ

はっ

はあ

はあ

は

じゅっ  
じゅっ

じゅっ

じゅっ

じゅっ  
じゅっ

じゅっ  
じゅっ

お願いします  
奥まで突いて  
中で射精して  
ください…ッ！



…たくさん  
射精してやるから  
一緒にイこうな…

あっ

は

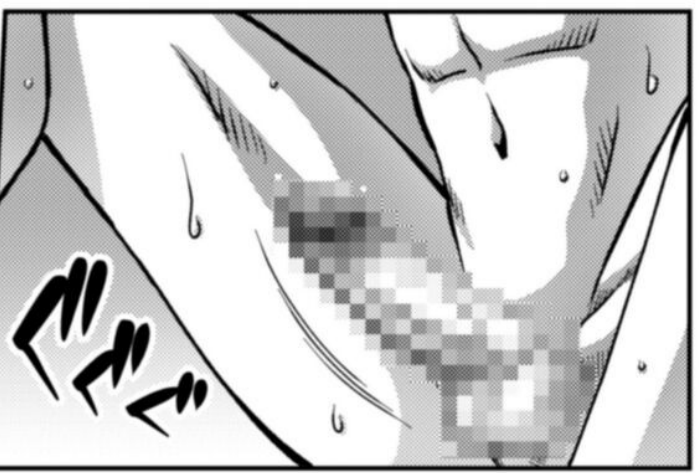
いっ



あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ







お好きにだけ  
また尻穴を  
突いてください

ああ：  
悠真様がまた  
入ってきて  
くださった：



ああ  
そう  
しよう



そうだ




立場上私には  
意見を言う資格が  
ないから…ですか？  
あつ



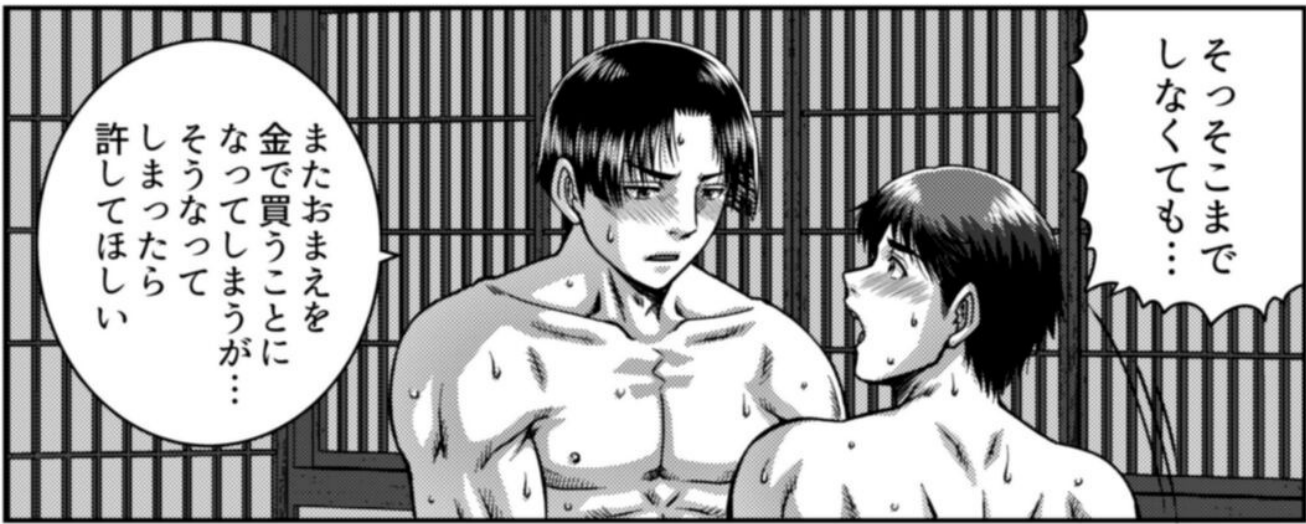
章仁：  
俺が親父に  
掛け合うよ

おまえを  
俺だけのものに  
するために



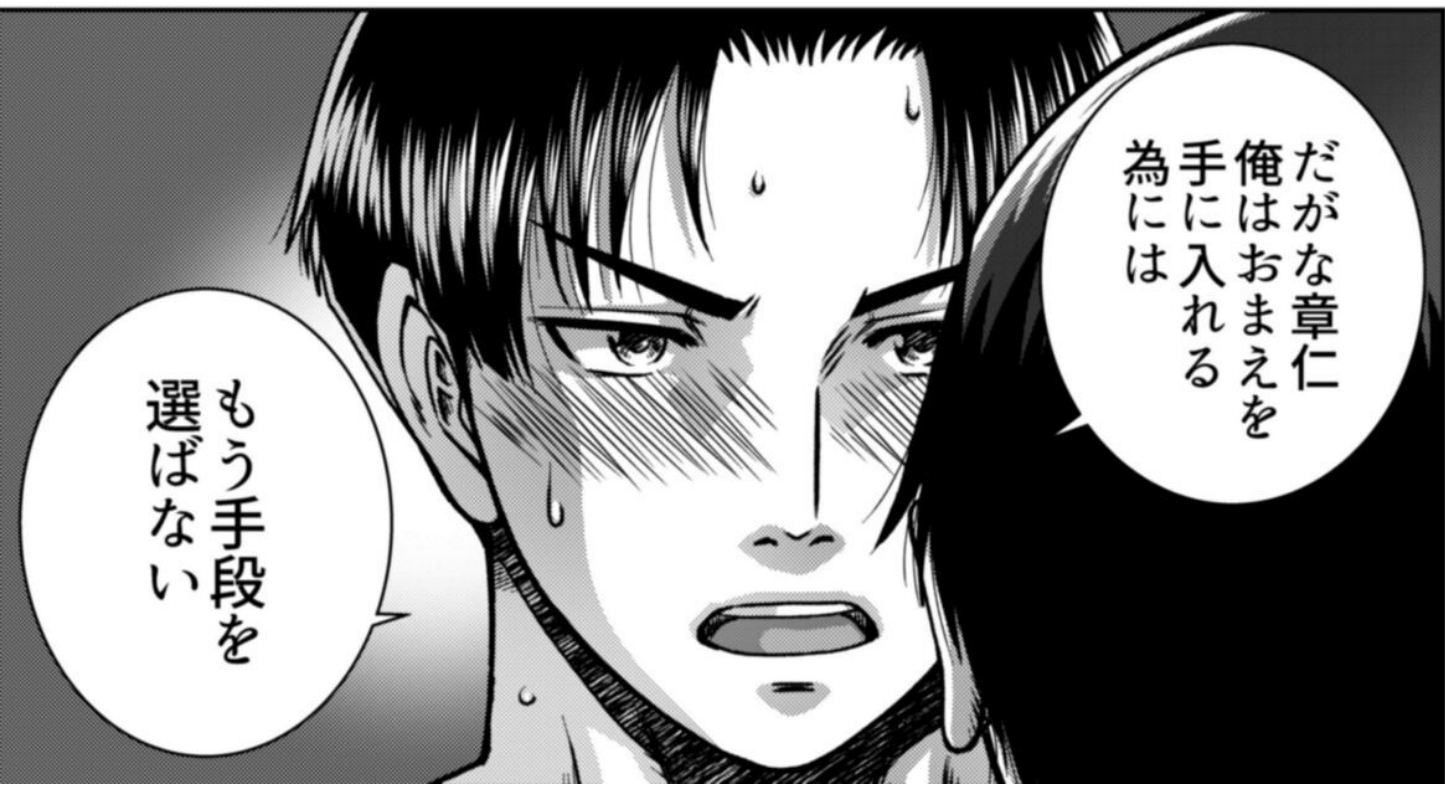
もしダメと  
言われたら

俺がおまえを  
「身請け」する



そつそこまで  
しなくても…

またおまえを  
金で買うことにな  
ってしまいが…  
そうなら  
しまったら  
許してほしい



だがな章仁  
俺はおまえを  
手に入れる  
為には

もう手段を  
選ばない

どんなことが  
あっても…

俺はおまえを  
離さない



絶対にだ

終